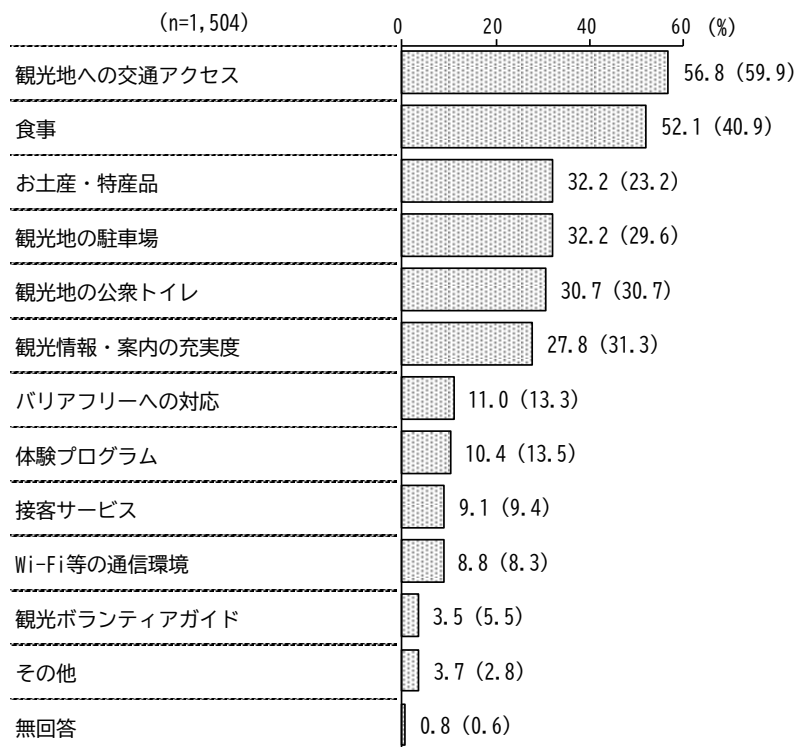


(1) 県内でより快適な旅行をするために充実してほしいこと

(複数回答:3つまで)

千葉県内を旅行する場合、より快適な旅行をするためには、特に何が充実してほしいか聞いたところ、「観光地への交通アクセス」(56.8%)が5割台半ばで最も高く、以下、「食事」(52.1%)、「お土産・特産品」(32.2%)、「観光地の駐車場」(32.2%)が続く。

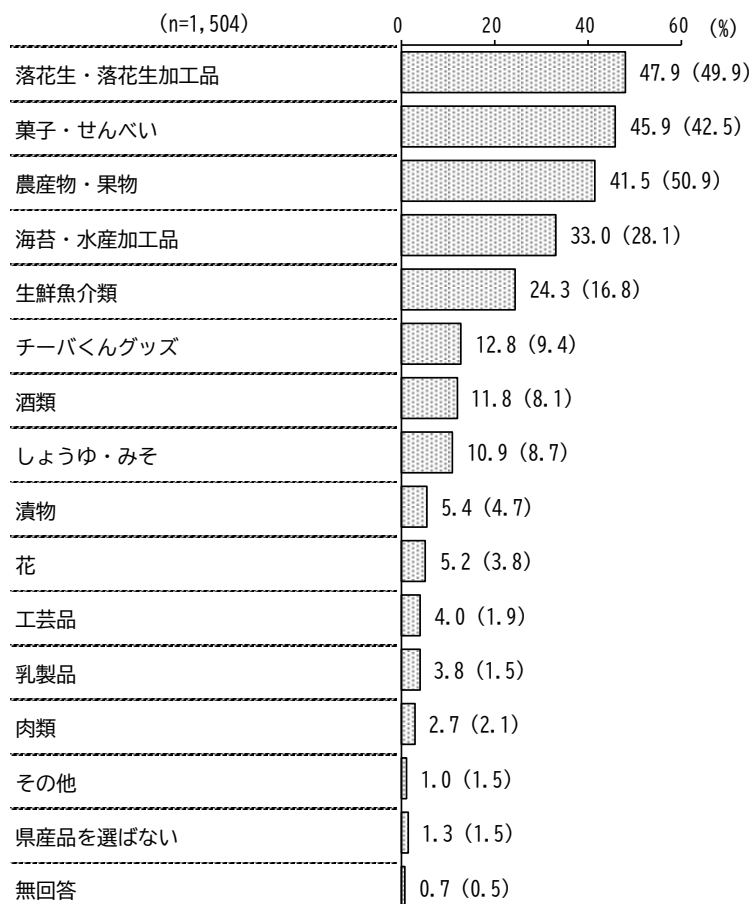


注) () 書きは、令和5年度の調査結果を示している。

(2) お土産や贈答品として選ぶ県産品

(複数回答:3つまで)

県産品をお土産や贈答品とする場合、何を選ぶか3つまで選んでもらったところ、「落花生・落花生加工品」(47.9%)が約5割で最も高く、以下、「菓子・せんべい」(45.9%)、「農産物・果物」(41.5%)が続く。

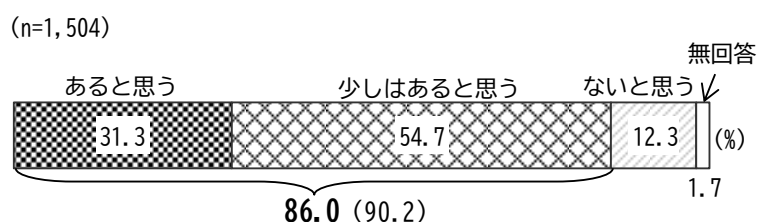


注) () 書きは、令和5年度の調査結果を示している。

(3)障害を理由とする差別や偏見の有無

障害を理由とする差別や偏見の有無を聞いたところ、「あると思う」(31.3%)と「少しはあると思う」(54.7%)を合わせた『あると思う(計)』(86.0%)は8割台半ばとなっている。

一方、「ないと思う」(12.3%)は1割を超えている。

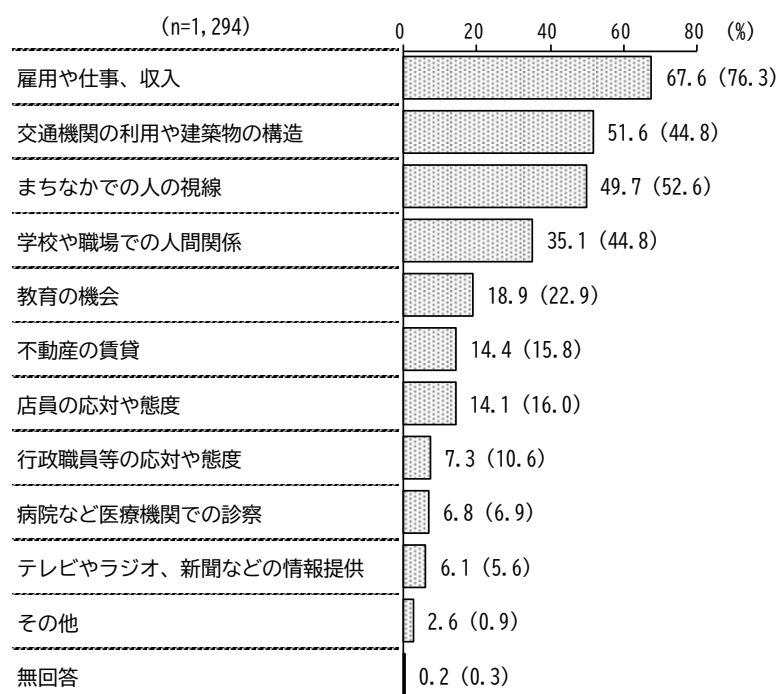


注) () 書きは、令和5年度の調査結果を示している。

(3-1)障害を理由とする差別や偏見がある場面

(複数回答:いくつでも)

障害を理由とする差別や偏見がある場面を聞いたところ、「雇用や仕事、収入」(67.6%)が約7割で最も高く、以下「交通機関の利用や建築物の構造」(51.6%)、「まちなかでの人の視線」(49.7%)、「学校や職場での人間関係」(35.1%)が続く。



注) () 書きは、令和5年度の調査結果を示している。

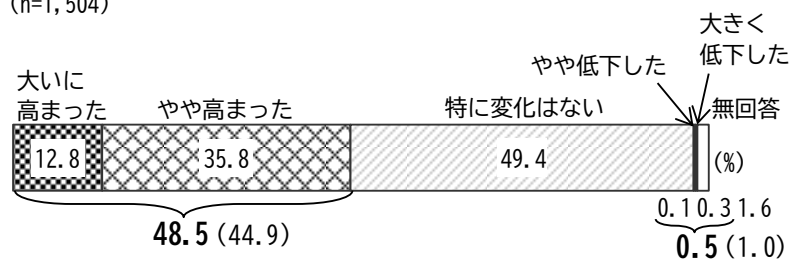
(1) 市民活動団体の活動やボランティア活動への関心度

市民活動団体の活動やボランティア活動への関心度について、「大いに高まった」(12.8%)と「やや高まった」(35.8%)を合わせた『高まった(計)』(48.5%)が約5割となっている。

一方、「やや低下した」(0.1%)と「大きく低下した」(0.3%)を合わせた『低下した(計)』(0.5%)は1割未満となっている。

また、「特に変化はない」(49.4%)は約5割となっている。

(n=1,504)



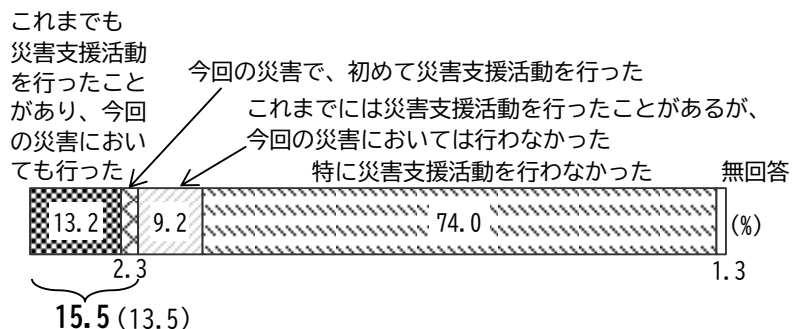
注) () 書きは、令和2年度の調査結果を示している。

(2) 令和5年、令和6年に発生した災害での災害支援活動の参加経験

令和5年、令和6年に発生した災害での災害支援活動の参加経験を聞いたところ、「これまでも災害支援活動を行ったことがあり、今回の災害においても行った」(13.2%)と「今回の災害で、初めて災害支援活動を行った」(2.3%)を合わせた『今回の災害で行った(計)』(15.5%)が1割台半ばとなっている。

一方、「特に災害支援活動を行わなかった」(74.0%)は7割台半ばとなっている。

(n=1,504)

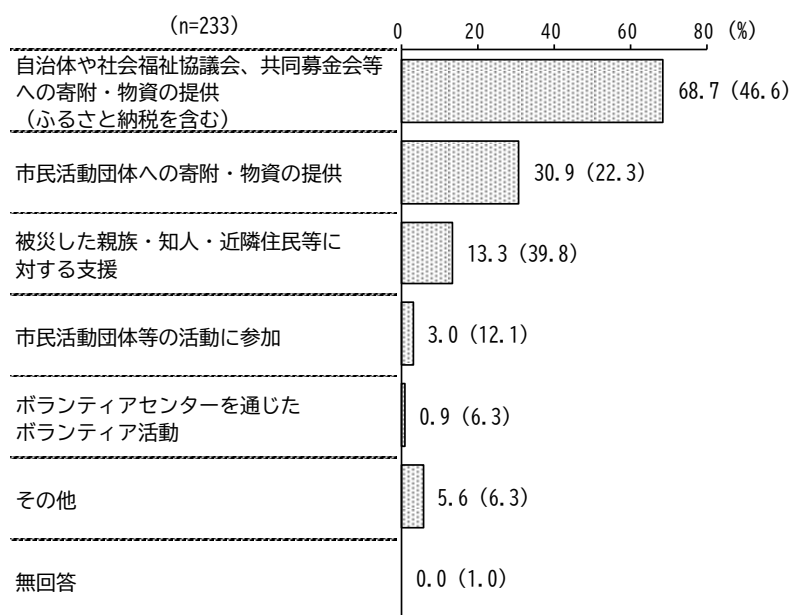


注) () 書きは、令和2年度の調査結果を示している。

(2-1) 参加した災害支援活動の内容

(複数回答:いくつでも)

参加した災害支援活動の内容について聞いたところ、「自治体や社会福祉協議会、共同募金会等への寄附・物資の提供（ふるさと納税を含む）」（68.7%）が約7割で最も高く、以下、「市民活動団体への寄附・物資の提供」（30.9%）、「被災した親族・知人・近隣住民等に対する支援」（13.3%）が続く。

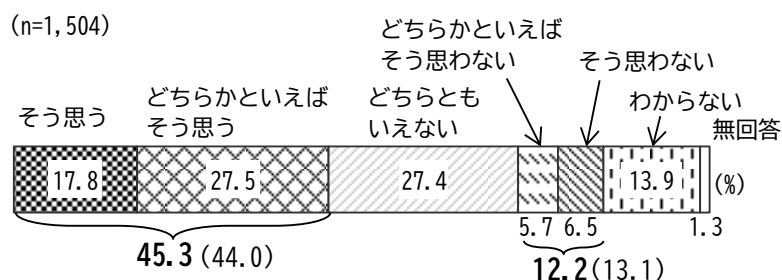


注）（ ）書きは、令和2年度の調査結果を示している。

(3) 今後の災害支援活動への参加意向

今後の災害支援活動への参加意向について、「そう思う」（17.8%）と「どちらかといえばそう思う」（27.5%）を合わせた『そう思う（計）』（45.3%）が4割台半ばとなっている。

一方、「どちらかといえばそう思わない」（5.7%）と「そう思わない」（6.5%）を合わせた『そう思わない（計）』（12.2%）が1割を超えている。



注）（ ）書きは、令和2年度の調査結果を示している。

「災害ボランティア等について」の自由回答(抜粋)

ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、270人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載するものとする。

■「災害ボランティア等について」の自由回答（抜粋）

○被災地では野菜や果物がとても貴重になると聞きます。すでにそのような活動はされているかもしれませんが、県内で廃棄されるものをお送りしてあげたら喜ばれると思いました。日持ちしないものなので、輸送の問題、保存の問題はあると思いますが。（女性、40代、葛南地域）

○ちばボランティアナビのようなアプリがあるとやりやすいと思いました。それと、ちばボラは良い取り組みだと思いましたが、多くの人に知られていないと思うので、チラシや宣伝でPRするともっと良いと思います。（男性、20代、東葛飾地域）

○支援活動にかかる交通費等を負担してほしい。（男性、20代、千葉地域）

○災害ボランティアも大勢が行くと迷惑とか、物資も不必要な迷惑な品もあると聞きました。どんな物が必要でどこに持って行けばいいか、子育てで現地に行けない場合、どのような支援のやり方があるのかわかりやすく、大々的にお知らせしてほしい。ちばボランティアナビのようなサイトがあることも知らなかったのです。（女性、40代、東葛飾地域）

○災害ボランティアに参加しているかたは本当に立派だと思います。自分が災害地でボランティアをしても体力が無いので足を引っ張ってしまうのではないかと考えてしまいます。できることとすれば少額の寄附や、観光地の復興のタイミングにもよりますが、観光の協力をしたいと思います。（女性、50代、東葛飾地域）

○近年の震災の記事では、災害支援活動への注目が逆に渋滞になるので来ないでくださいなどの記事を、特に能登地震では多く見かけたので、なるべく大人しくしたほうがいいのではないかなと思うようになりました。（女性、20代、君津地域）

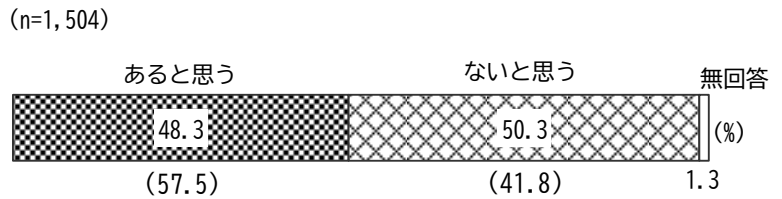
○ボランティア活動を行いたいと思うが、会社員では無理があります。会社にはボランティア休暇はあるが取得者はほぼゼロである。会社が悪いでもなく休まれたら業務が滞るので理解する。結局、育児、介護等全て休暇制度はあっても現実的に休暇を取れば残った社員に負担がかかり取ることはできない。（男性、40代、千葉地域）

3 消費生活について

(1) 消費者トラブルにあった際の「安心して相談できるところ」の有無

消費者トラブルにあった時、市町村の窓口など「安心して相談できるところ」があると思うか聞いたところ、「あると思う」(48.3%)が約5割となっている。

一方、「ないと思う」(50.3%)は5割となっている。

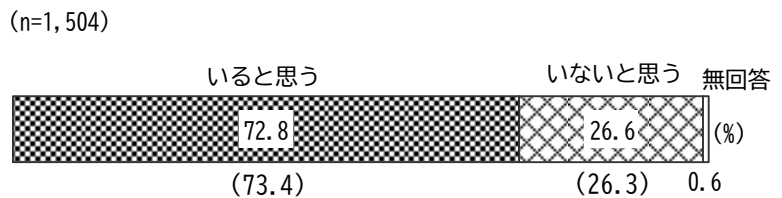


注) () 書きは、令和4年度の調査結果を示している。

(2) 消費者トラブルにあった際の「いつでも相談できる人」の有無

消費者トラブルにあった時に、地域や身近なところで、家族や知人など「いつでも相談できる人」がいると思うか聞いたところ、「いると思う」(72.8%)が7割を超える。

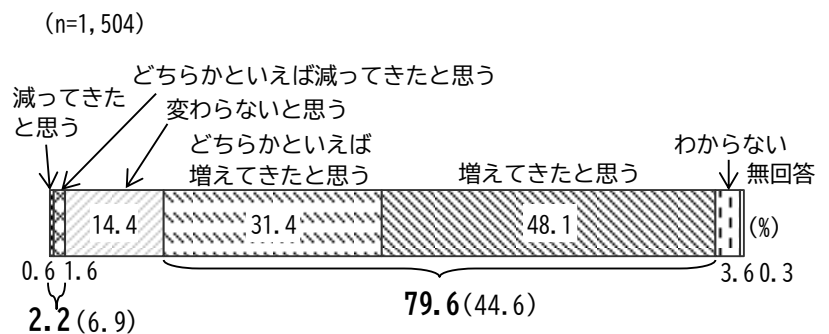
一方、「いないと思う」(26.6%)は2割台半ばとなっている。



注) () 書きは、令和4年度の調査結果を示している。

(3) 悪質商法に対する考え

点検商法や架空請求などの悪質商法が減ってきたと思うか聞いたところ、「どちらかといえば増えてきたと思う」(31.4%)と「増えてきたと思う」(48.1%)を合わせた『増えてきた(計)』(79.6%)が約8割となっている。

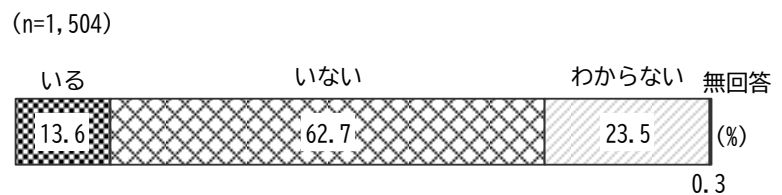


注) () 書きは、令和4年度の調査結果を示している。

(4) 本人または身の周りでの悪質商法被害の発生有無

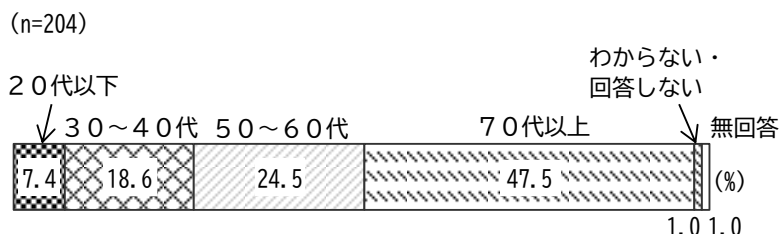
本人または身の周りでの悪質商法被害の発生の有無を聞いたところ、「いる」(13.6%)は1割台半ばとなっている。

一方、「いない」(62.7%)は6割を超えている。



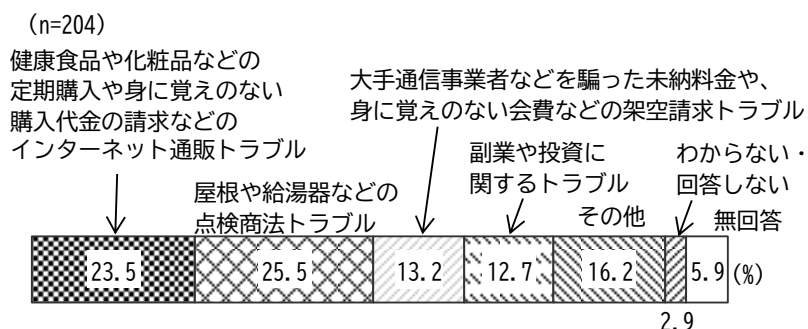
(4-1)被害にあった方の年代

被害にあった方の年代について聞いたところ、「70代以上」(47.5%)が約5割で最も高く、以下、「50～60代」(24.5%)、「30～40代」(18.6%)と続く。



(4-2)被害の内容

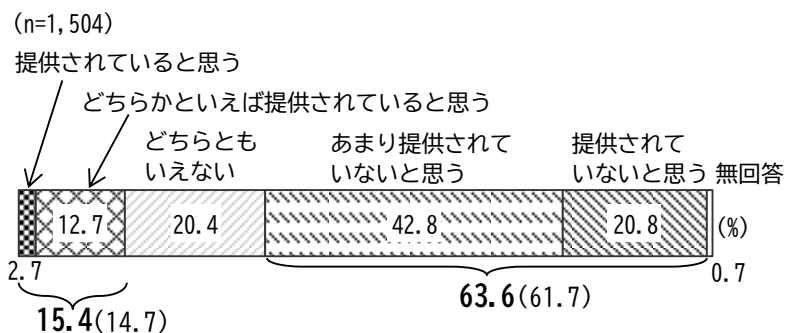
被害の内容を聞いたところ、「屋根や給湯器などの点検商法トラブル」(25.5%)が2割台半ばで最も高く、以下、「健康食品や化粧品などの定期購入や身に覚えのない購入代金の請求などのインターネット通販トラブル」(23.5%)、「大手通信事業者などを騙った未納料金や、身に覚えのない会費などの架空請求トラブル」(13.2%)、「副業や投資に関するトラブル」(12.7%)が続く。



(5)消費者教育の機会に対する考え

学校や地域、職場などで消費者教育の機会が提供されていると思うか聞いたところ、「提供されていると思う」(2.7%)と「どちらかといえば提供されていると思う」(12.7%)を合わせた『提供されている(計)』(15.4%)が1割台半ばとなっている。

一方、「あまり提供されていないと思う」(42.8%)と「提供されていないと思う」(20.8%)を合わせた『提供されていない(計)』(63.6%)が6割台半ばとなっている。

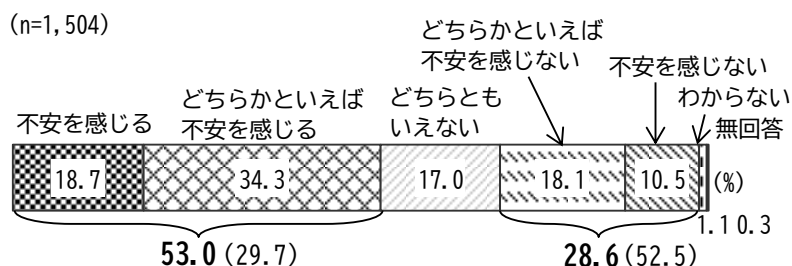


注) () 書きは、令和4年度の調査結果を示している。

(6)生活必需品の安定的な供給体制や安全性に対する不安の有無

普段の生活の中で、生活必需品の安定的な供給体制や安全性に不安を感じることがあるか聞いたところ、「不安を感じる」(18.7%)と「どちらかといえば不安を感じる」(34.3%)を合わせた『不安を感じる(計)』(53.0%)は5割を超えている。

一方、「どちらかといえば不安を感じない」(18.1%)と「不安を感じない」(10.5%)を合わせた『不安を感じない(計)』(28.6%)が約3割となっている。

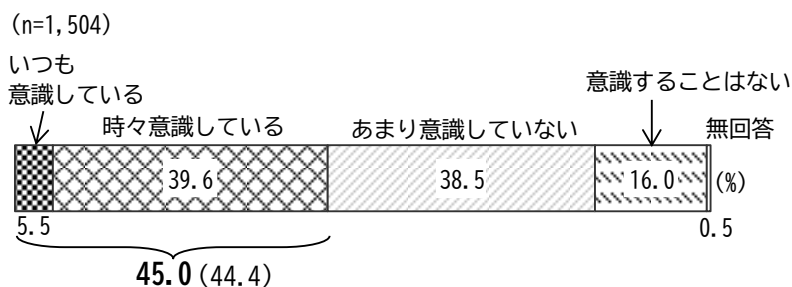


注) () 書きは、令和4年度の調査結果を示している。

(7)買い物をする際の「エシカル消費」の意識の有無

買い物をする際に、「エシカル消費」を意識するかを聞いたところ、「いつも意識している」(5.5%)と「時々意識している」(39.6%)を合わせた『意識している(計)』(45.0%)が4割台半ばとなっている。

一方、「あまり意識していない」(38.5%)は約4割、「意識することはない」(16.0%)は1割台半ばとなっている。



注) () 書きは、令和4年度の調査結果を示している。

「消費生活について」の自由回答(抜粋)

ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、174人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載するものとする。

■「消費生活について」の自由回答（抜粋）

○中学や高等学校で、消費者トラブルの教育も必要だと思います。闇バイトと知らずに普通のバイトと思い参加してしまうことがメディアで取り上げられているので。また、高齢者の特殊詐欺は地域で取り組む必要があるのと、金融機関の方や宅配業者の方の声かけで防ぐことができると思いますのでその方々の協力も不可欠だと思います。（女性、50代、東葛飾地域）

○消費者トラブルは、巧妙な手口も多くなっているようで、常に最新情報を提供し、住民に共有・周知できる仕組みづくりが大切だと思います。いざ、自分の身近で何か起きないと、他人事と思い、意識が低いかと思うので、繰り返し根気強く周知が必要だと思います。（女性、30代、東葛飾地域）

○消費者トラブルにあうと、泣き寝入りするしかないというイメージがある。被害回復にもう一歩踏み込んだ施策が必要だと思います。（女性、40代、千葉地域）

○トラブル回避についての勉強会を地元自治体が複数回開催して欲しい（参加しやすく）。点検商法について、発生もしくは出会った際の通報先を明らかにし、住民に速やかに周知の徹底を図って欲しい。（男性、70～74歳、安房地域）

○トラブルがあった際にもっと気軽に警察に相談できる環境であって欲しい。（女性、30代、葛南地域）

○悪質事業者を排除する法や条例の整備や違反した場合の罰則の強化が必要だと思います。（女性、70～74歳、香取地域）

○インターネットでのトラブルが激増していると思う。巧妙でわかりにくくなっており、自分自身も通販トラブルにあった。トラブルを防ぐ教育や情報が追いついていない中、学校での教育を強化してほしい。（男性、30代、海匝地域）

○エシカル消費については、もっと売場や商品に、消費者にわかるような工夫があれば選ぶことができる機会が増えると考えます。（女性、65～69歳、千葉地域）

○エコ商品、被災地産品は、一般スーパーにおいて表記があるため分かりやすいと思うが、障害者支援に繋がる商品やフェアトレード商品は、一般スーパーで買い物をする上で、置いてあるかどうか、分かりにくい。（女性、30代、葛南地域）

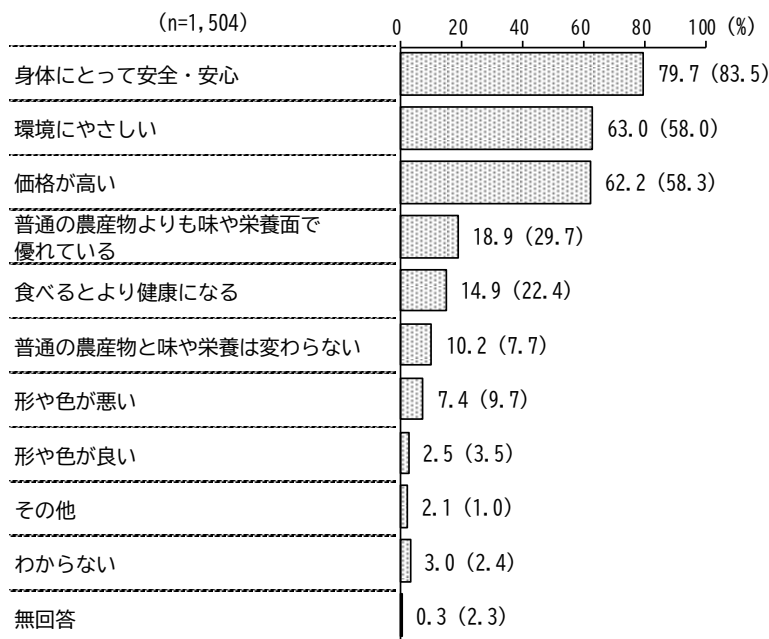
○フェアトレード商品やエコ商品等をいつも選びたいと思うが、経済的にきびしい。（男性、75歳以上、東葛飾地域）

4 有機農業について

(1) 有機農産物に対するイメージ

(複数回答:いくつでも)

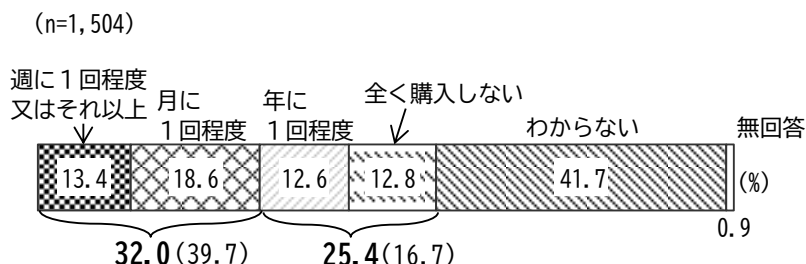
有機農産物に対するイメージを聞いたところ、「身体にとって安全・安心」(79.7%)が約8割で最も高く、以下、「環境にやさしい」(63.0%)、「価格が高い」(62.2%)、「普通の農産物よりも味や栄養面で優れている」(18.9%)が続く。



注) () 書きは、平成30年度の調査結果を示している。

(2) 有機農業により生産される農産物の購入頻度

有機農業により生産される農産物の購入頻度を聞いたところ、「週に1回程度又はそれ以上」(13.4%)と「月に1回程度」(18.6%)を合わせた『購入する(計)』(32.0%)は3割を超えている。一方、「年に1回程度」(12.6%)と「全く購入しない」(12.8%)を合わせた『購入しない(計)』(25.4%)は2割台半ばとなっている。

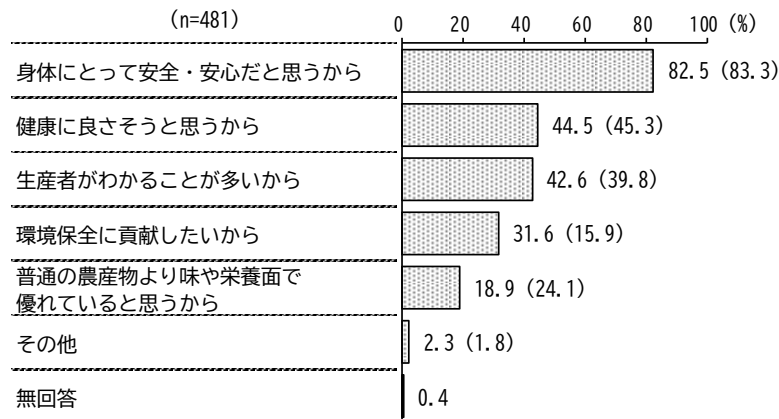


注) () 書きは、令和4年度の調査結果を示している。

(2-1) 有機農産物購入理由

(複数回答:いくつでも)

有機農産物の購入理由を聞いたところ、「身体にとって安全・安心だと思うから」(82.5%)が8割を超えて最も高く、以下、「健康に良さそうと思うから」(44.5%)、「生産者がわかることが多いから」(42.6%)、「環境保全に貢献したいから」(31.6%)が続く。

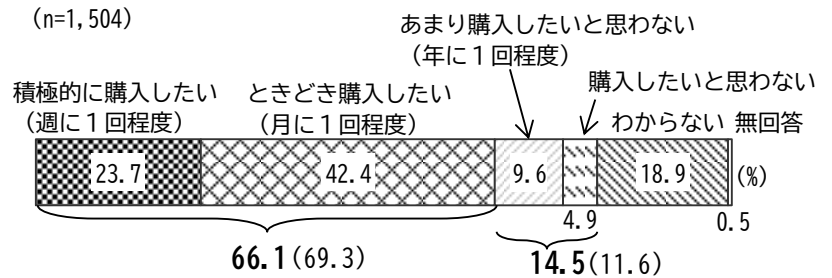


注) () 書きは、平成30年度の調査結果を示している。

(3)有機農産物の今後の購入意向

有機農産物の今後の購入意向を聞いたところ、「積極的に購入したい（週に1回程度）」（23.7%）と「ときどき購入したい（月に1回程度）」（42.4%）を合わせた『購入したい（計）』（66.1%）は6割台半ばとなっている。

一方、「あまり購入したいと思わない（年に1回程度）」（9.6%）と「購入したいと思わない」（4.9%）を合わせた『購入したくない（計）』（14.5%）は1割台半ばとなっている。

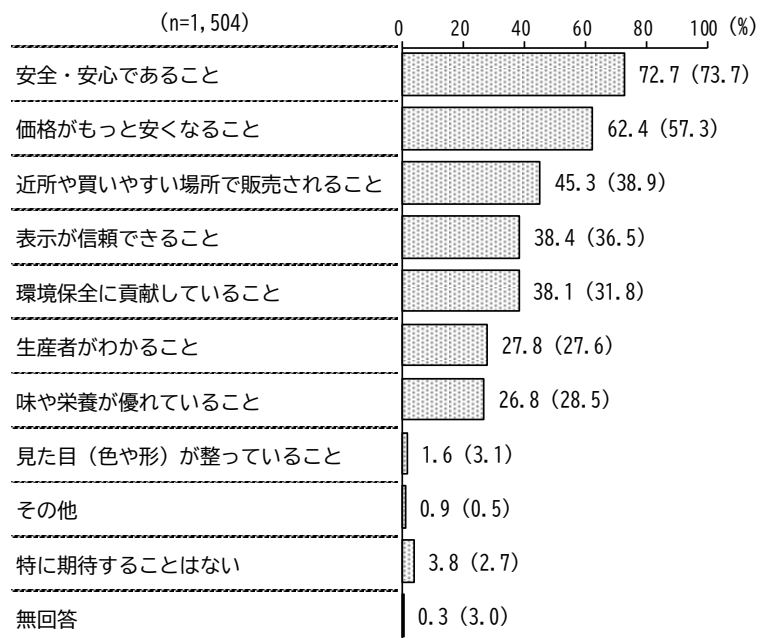


注) () 書きは、平成30年度の調査結果を示している。

(4)有機農産物に今後期待すること

(複数回答:いくつでも)

有機農産物に今後期待することを聞いたところ、「安全・安心であること」（72.7%）が7割を超えて最も高く、以下、「価格がもっと安くなること」（62.4%）、「近所や買いやすい場所で販売されること」（45.3%）、「表示が信頼できること」（38.4%）が続く。



注) () 書きは、平成30年度の調査結果を示している。

「有機農業について」の自由回答(抜粋)

ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、170人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載するものとする。

■「有機農業について」の自由回答（抜粋）

○有機農業商品は、高価なイメージがあり、手を出しにくい。県内で生産されているものについては、可能な範囲で安価に提供していただきたい。
(男性、40代、葛南地域)

○有機農業は環境には良いと思いますが、実際手間がかかり農業に携わる人の高齢化や人材不足によって難しい面もあるのでは。
(男性、70～74歳、千葉地域)

○有機農業について、ほとんど知識が無く、必要性がどこにあるのかわからない。有機農業で生産された野菜のどこがすばらしいのかももう少しアピールすべきです。
(男性、65～69歳、葛南地域)

○有機作物は高い印象がある人が多いと思います。でも高いのではなく、普通の作物の値段が安すぎるだけです。だから後継者がいなくなり、耕作放棄地が増えるのです。いざとなれば輸入すればいいやと考えているのでしょうか？ 農家を大切にするような政策など、国民の意識もそうですが、考えていかないと本当にまずいと思います。宜しくお願いします。
(男性、30代、安房地域)

○身体に良いし美味しいことは分かっていて、以前はよく購入していましたが、高値になり家計も苦しくなってからは、残念ながら買っていません。
(男性、60～64歳、印旛地域)

○近所のスーパーで販売されることが少なく、遠くの道の駅等で購入している。観光PRも含めて各道の駅で販売されている情報提供をして欲しい。
(男性、70～74歳、千葉地域)

○学校給食に積極的にとり入れてほしい。
(性別無回答、年齢無回答、千葉地域)

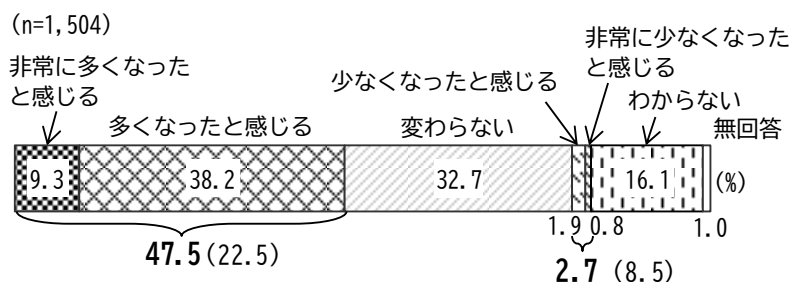
○化成肥料を有機肥料に変更した場合の差額を補助金で交付するのはどうでしょうか。
(性別回答しない、30代、印旛地域)

○料理が苦手なので、農産物をそのまま販売されるより、美味しい惣菜や加工品にされていると購入したいと思う。
(女性、30代、葛南地域)

(1)お住まいの地域の犯罪発生状況

お住まいの地域の犯罪発生状況について、「非常に多くなったと感じる」(9.3%)と「多くなったと感じる」(38.2%)を合わせた『多くなったと感じる(計)』(47.5%)が約5割となっている。

一方、「少なくなったと感じる」(1.9%)と「非常に少なくなったと感じる」(0.8%)を合わせた『少なくなったと感じる(計)』(2.7%)が1割未満となっている。

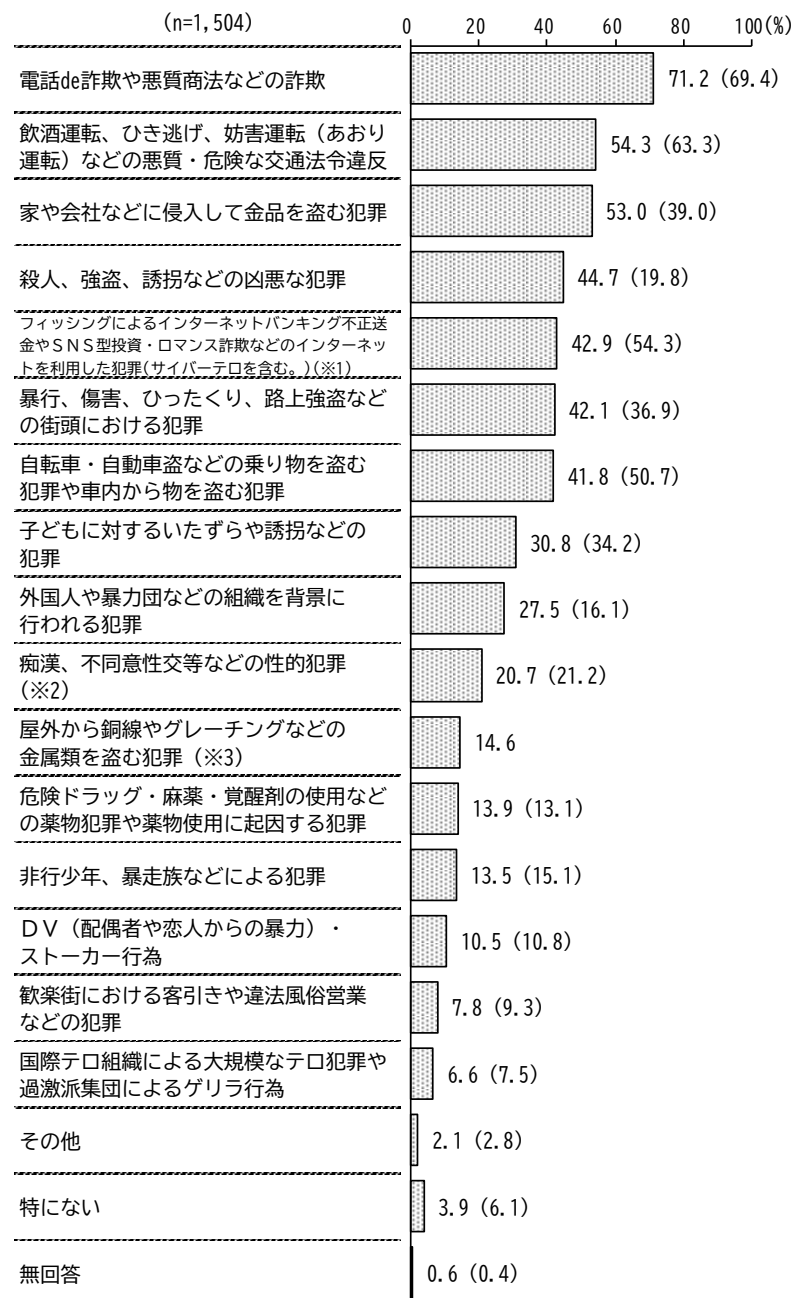


注) () 書きは、令和4年度の調査結果を示している。

(2)自身や身近な人が巻き込まれる危険性に不安を感じる犯罪

(複数回答:いくつでも)

自身や身近な人が巻き込まれる危険性に不安を感じる犯罪について聞いたところ、「電話de詐欺や悪質商法などの詐欺」(71.2%)が7割を超えて最も高く、以下、「飲酒運転、ひき逃げ、妨害運転(あおり運転)などの悪質・危険な交通法令違反」(54.3%)、「家や会社などに侵入して金品を盗む犯罪」(53.0%)、「殺人、強盗、誘拐などの凶悪な犯罪」(44.7%)が続く。



注) () 書きは、令和4年度の調査結果を示している。

(※1)令和4年度調査では「インターネットを利用した犯罪(サイバーテロを含む)」

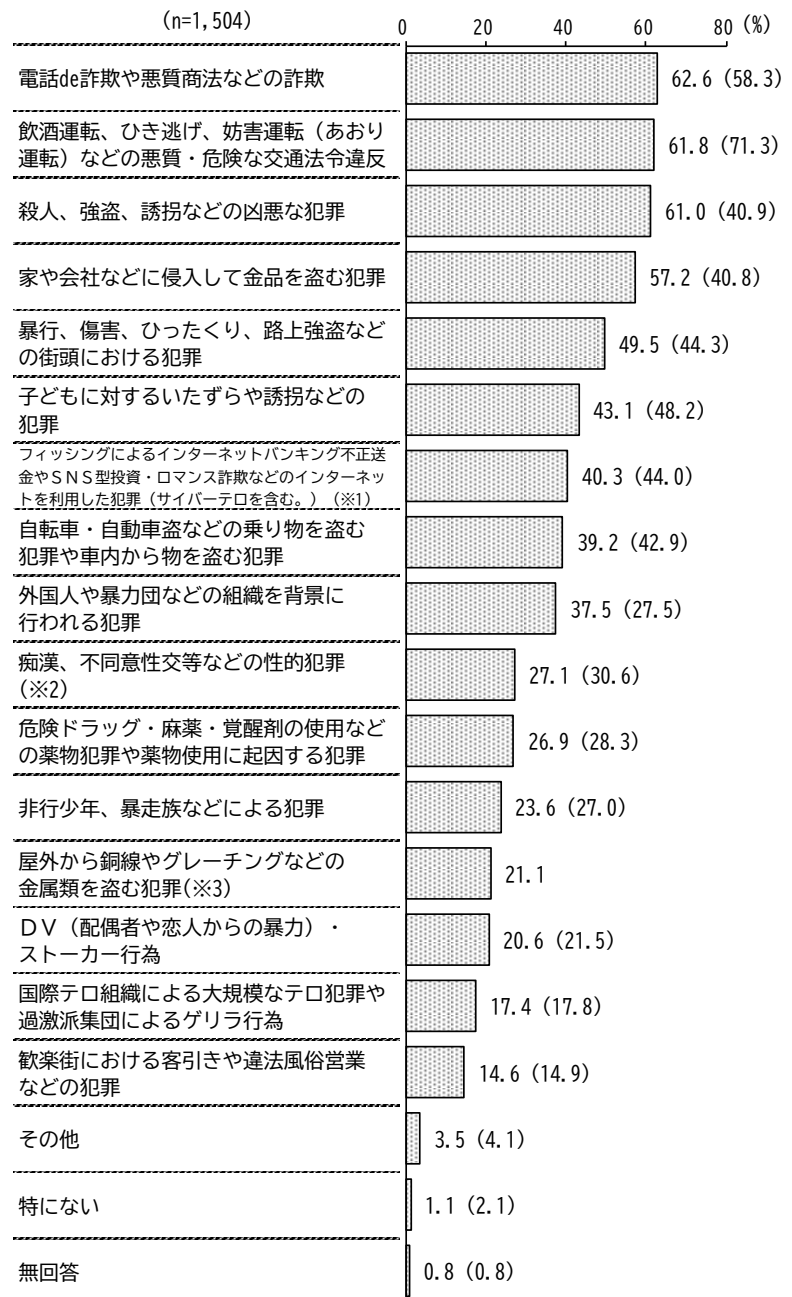
(※2)令和4年度調査では「痴漢、強制性交等などの性的犯罪」

(※3)「屋外から銅線やグレーチングなどの金属類を盗む犯罪」は今回調査から追加

(3)警察に力を入れて取り締まってほしい犯罪

(複数回答:いくつでも)

警察に力を入れて取り締まってほしい犯罪について聞いたところ、「電話de詐欺や悪質商法などの詐欺」(62.6%)が6割を超えて最も高く、以下、「飲酒運転、ひき逃げ、妨害運転(あおり運転)などの悪質・危険な交通法令違反」(61.8%)、「殺人、強盗、誘拐などの凶悪な犯罪」(61.0%)、「家や会社などに侵入して金品を盗む犯罪」(57.2%)が続く。



注) () 書きは、令和4年度の調査結果を示している。

(※1)令和4年度調査では「インターネットを利用した犯罪(サイバーテロを含む)」

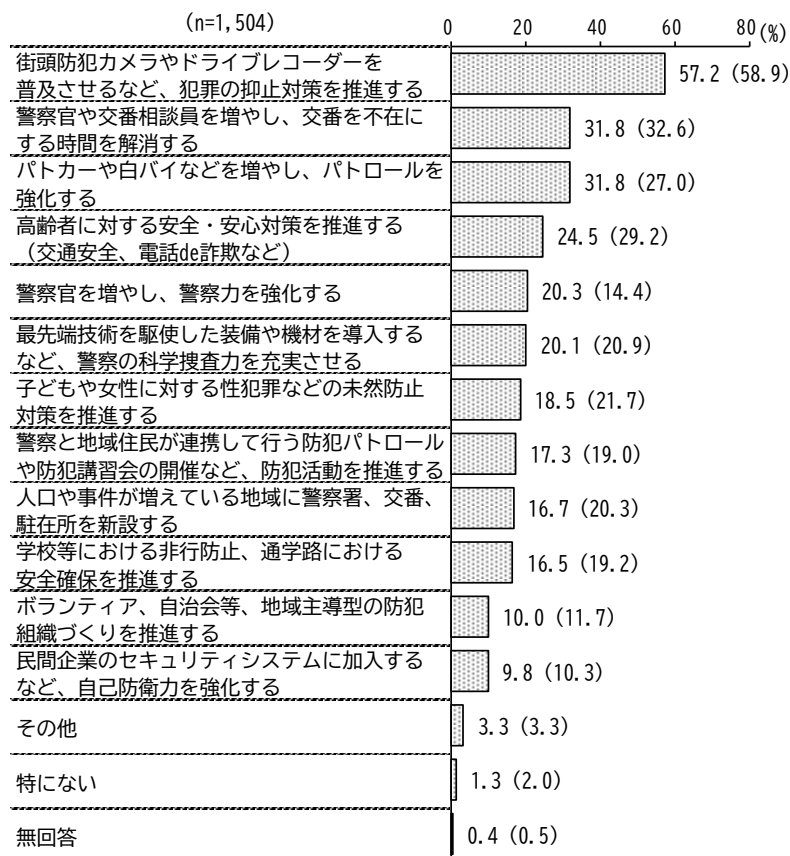
(※2)令和4年度調査では「痴漢、強制性交等などの性的犯罪」

(※3)「屋外から銅線やグレーチングなどの金属類を盗む犯罪」は今回調査から追加

(4)安全で安心できる生活を守っていくために必要なこと

(複数回答:3つまで)

安全で安心できる生活を守っていくために必要なことについて聞いたところ、「街頭防犯カメラやドライブレコーダーを普及させるなど、犯罪の抑止対策を推進する」(57.2%)が約6割で最も高く、以下、「警察官や交番相談員を増やし、交番を不在にする時間を解消する」(31.8%)、「パトカーや白バイなどを増やし、パトロールを強化する」(31.8%)、「高齢者に対する安全・安心対策を推進する(交通安全、電話de詐欺など)」(24.5%)が続く。



注) () 書きは、令和4年度の調査結果を示している。

「県民の治安に対する意識と警察に求めることについて」の自由回答(抜粋)

ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、204人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載するものとする。

■「県民の治安に対する意識と警察に求めることについて」の自由回答(抜粋)

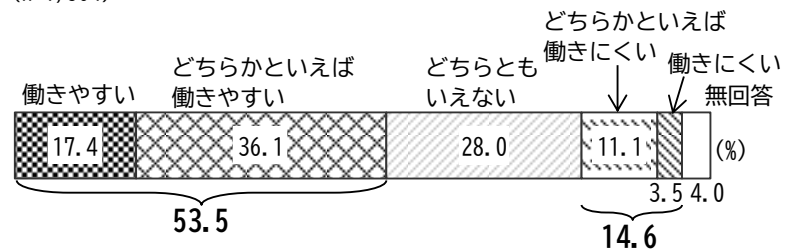
- 夜暗い道は犯罪が起こりやすいので防犯カメラを増やして欲しい。学生が夜通るような道のパトロールをして欲しい。(女性、20代、葛南地域)
- 自身が居住する地域でパトカーやバイクでパトロールしている警察官を見かけると安心できるので、昼間だけでなく夜間のパトロール頻度を増やして欲しい。(男性、70～74歳、千葉地域)
- 地域巡回をふやしてほしい。車の違反をとりしめるのも重要であるが、それ以外にもっと必要なことに人力を注いでほしい。(女性、65～69歳、千葉地域)
- 千葉で強盗が多いことに非常に不安を感じる。一方で犯人を早めに検挙していることに、警察の努力も感じる。「事件を起こさせない」ことについては、県民が努力できることだと思う。県にはその手助けをしてほしいです。(女性、40代、千葉地域)
- 治安や防犯について、不安なことがあったり不安を感じたりした時、気軽に相談できる場所や人があるといいと思う(どこに相談していいかわからない)。(女性、70～74歳、印旛地域)
- 最近目に見えて公道での暴走行為や騒音被害をたびたび見かけたり聞いたりが増えたように思います。取り締まり強化をお願いできたらと思います。(性別回答しない、40代、千葉地域)
- 自転車の交通ルール違反が目には余る。取り締まりの強化を望む。(男性、75歳以上、葛南地域)
- 警察官が制服のままスーパーやコンビニを利用することは犯罪をしようとしている人の抑制になるので、ぜひ積極的に利用してほしいです。「仕事中にサボっている」という市民の意見が出ないよう、有効性やメリットをPRしてほしいです。(女性、30代、東葛飾地域)
- 街灯の増設、防犯カメラの設置。(男性、40代、葛南地域)
- 闇バイトによる犯罪が頻繁に報道されているので、早く対策を行なって欲しい。秘匿性の高いアプリケーションについても、何かしらの規制をしてほしい。(男性、40代、東葛飾地域)
- SNSの誹謗・中傷、ニセ情報、闇バイトの募集等に対する取締まりの強化。(男性、75歳以上、安房地域)

(1) 職場での働きやすさ

職場での働きやすさについて聞いたところ、「働きやすい」(17.4%)と「どちらかといえば働きやすい」(36.1%)を合わせた『働きやすい(計)』(53.5%)が5割台半ばとなっている。

一方、「どちらかといえば働きにくい」(11.1%)と「働きにくい」(3.5%)を合わせた『働きにくい(計)』(14.6%)が1割台半ばとなっている。

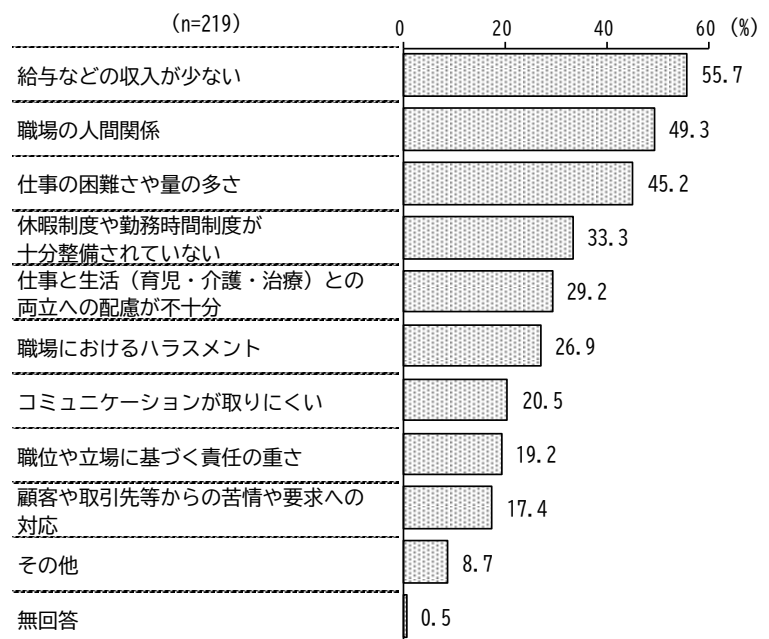
(n=1,504)



(1-1) 働きにくいと感じる理由

(複数回答:いくつでも)

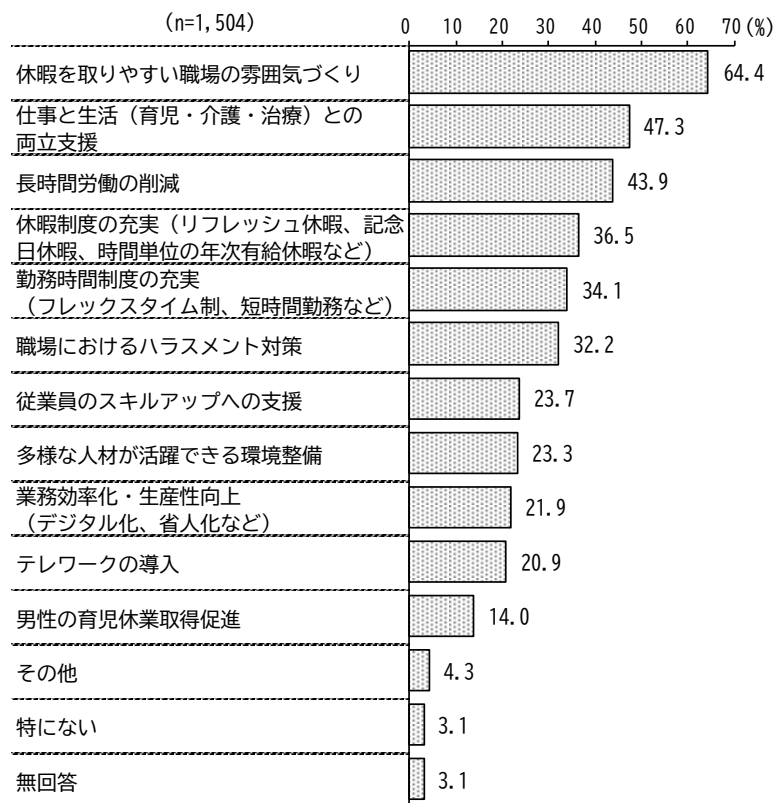
働きにくいと感じる理由を聞いたところ、「給与などの収入が少ない」(55.7%)が5割台半ばで最も高く、以下、「職場の人間関係」(49.3%)、「仕事の困難さや量の多さ」(45.2%)、「休暇制度や勤務時間制度が十分整備されていない」(33.3%)が続く。



(2)事業者の取組で重要だと思うこと

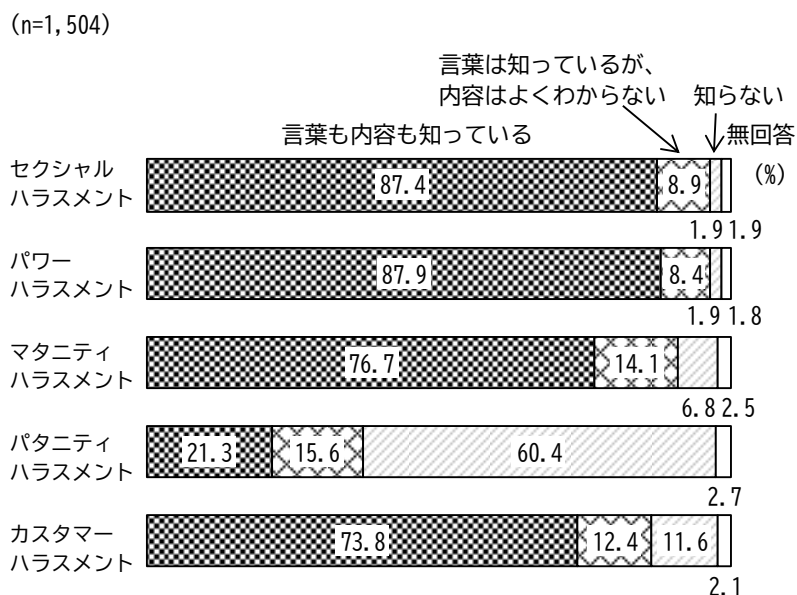
(複数回答:いくつでも)

事業者の取組で重要だと思うことを聞いたところ、「休暇を取りやすい職場の雰囲気づくり」(64.4%)が6割台半ばで最も高く、以下、「仕事と生活(育児・介護・治療)との両立支援」(47.3%)、「長時間労働の削減」(43.9%)、「休暇制度の充実(リフレッシュ休暇、記念日休暇、時間単位の年次有給休暇など)」(36.5%)、「勤務時間制度の充実(フレックスタイム制、短時間勤務など)」(34.1%)、「職場におけるハラスメント対策」(32.2%)、「従業員のスキルアップへの支援」(23.7%)、「多様な人材が活躍できる環境整備」(23.3%)、「業務効率化・生産性向上(デジタル化、省人化など)」(21.9%)、「テレワークの導入」(20.9%)、「男性の育児休業取得促進」(14.0%)、「その他」(4.3%)、「特にない」(3.1%)、「無回答」(3.1%)が続く。



(3)ハラスメントの認知度

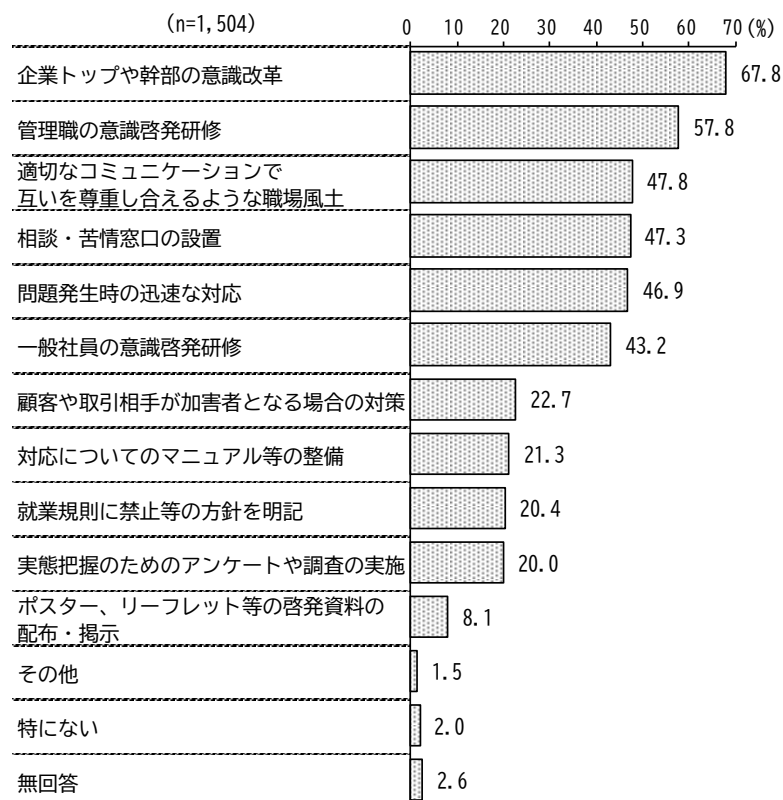
ハラスメントの種類別に認知度を聞いたところ、「言葉も内容も知っている」では、「パワーハラスメント」(87.9%)、「セクシャルハラスメント」(87.4%)がともに約9割で最も高く、以下、「マタニティハラスメント」(76.7%)、「カスタマーハラスメント」(73.8%)、「パタニティハラスメント」(21.3%)が続く。



(4) ハラスメント防止に向けた取組で重要だと思うこと

(複数回答:いくつでも)

ハラスメント防止に向けた取組で重要だと思うことを聞いたところ、「企業トップや幹部の意識改革」(67.8%) が約7割で最も高く、以下、「管理職の意識啓発研修」(57.8%)、「適切なコミュニケーションで互いを尊重し合えるような職場風土」(47.8%)、「相談・苦情窓口の設置」(47.3%)が続く。



「働きやすい職場環境づくりについて」の自由回答(抜粋)

ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、115人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載するものとする。

■「働きやすい職場環境づくりについて」の自由回答(抜粋)

○保育士、介護士など、人不足の職場への賃金のサポートやシングルで子育てしている家族への配慮など、働く意欲やメリットが充実する政策をお願いします。(女性、40代、東葛飾地域)

○働き方改革で結果、労働時間の短縮になっていきますが、給与は上げなければいけない方向になっています。然るに価格転嫁をしないとなりません。更には物価上昇に繋がることになってます。(女性、75歳以上、居住地域無回答)

○働き方改革が進められていると思うが末端では、まだまだ進んでいない。特に小中学校の先生方、その中でも体育系の先生は、平日の部活の指導、土、日曜日は部活、練習試合、大会と休日などないと、見聞している。(男性、75歳以上、君津地域)

○大企業はある程度守られていますが、小さな個人企業はハラスメントや低賃金、有給なし、ボーナスなしなど社員が守られていません。市や県、国がしっかり対策すべきです。(女性、50代、東葛飾地域)

○職場のハラスメント防止には企業トップ、幹部、管理職の意識改革が必要であると思う。当事者自身、その行為や言葉がハラスメントだと思っていないことが多い。幹部、管理職、社員の意識啓発研修が必要、そして人間同士のコミュニケーションにおいてお互いの人格を尊重し合えること、人間同士対等であることがゆきわたることと、自分の考えや意見が言いやすい、風通しの良い職場環境が必要である。部下、上司にフラットに意見が言えない、男女格差がある職場には、発展性がないと思う。(女性、75歳以上、葛南地域)

○職場でのハラスメントに対して一体だれに相談したら良いのかわからない場合が多いと思います。又、同じ部署の窓口に相談してもそれが上司に伝わり、ハラスメントしている本人に伝わりもっと立場が悪くなることを考えると、口を閉ざしてしまう傾向があるのではと思います。(女性、65～69歳、東葛飾地域)

○職場が「密室」になることなく、地域や社会に開かれた場所になるよう、外部の目や外部の視点が入りやすいように工夫するとよいと思う。(男性、30代、海匝地域)

○自身の働いている会社は、働きやすいので特に困っていないが、世の中の男性がもっと育児休暇を取れるようになると良いと感じる。(女性、20代、葛南地域)

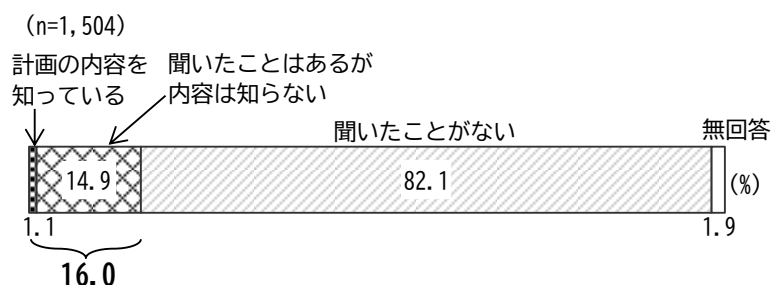
○介護をする者が休みをとりやすい環境を整えて欲しい。(女性、50代、東葛飾地域)

○育児休業や短時間勤務職員のフォローをする職員に対する手当や配慮が欲しいです。(性別回答しない、30代、印旛地域)

(1)「千葉県困難な問題を抱える女性支援基本計画」の認知度

「千葉県困難な問題を抱える女性支援基本計画」の認知度を聞いたところ、「計画の内容を知っている」(1.1%)と「聞いたことはあるが内容は知らない」(14.9%)を合わせた『聞いたことがある(計)』(16.0%)が1割台半ばとなっている。

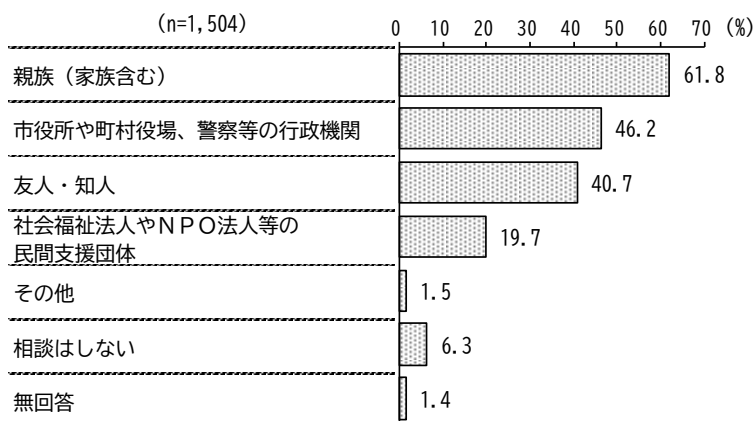
一方、「聞いたことがない」(82.1%)が8割を超えている。



(2)困難な問題を抱えた際の相談先

(複数回答:いくつでも)

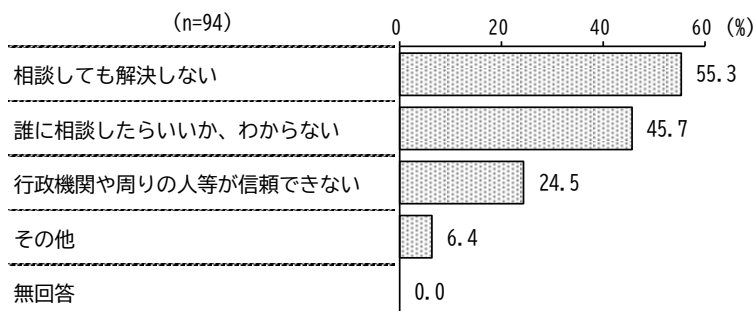
困難な問題を抱えた際の相談先を聞いたところ、「親族(家族含む)」(61.8%)が6割を超えて最も高く、以下、「市役所や町村役場、警察等の行政機関」(46.2%)、「友人・知人」(40.7%)、「社会福祉法人やNPO法人等の民間支援団体」(19.7%)が続く。



(2-1)困難な問題について相談しない理由

(複数回答:いくつでも)

困難な問題について相談しない理由を聞いたところ、「相談しても解決しない」(55.3%)が5割台半ばで最も高く、以下、「誰に相談したらいいか、わからない」(45.7%)、「行政機関や周りの人等が信頼できない」(24.5%)が続く。



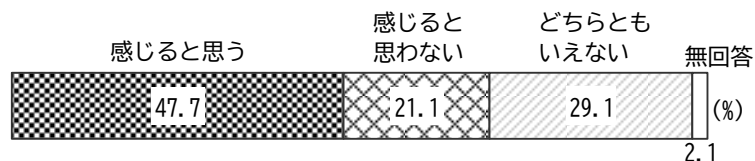
(3)DV被害等にあった場合のシェルター入所へのためらいの有無

DV被害等にあった場合のシェルター入所へのためらいの有無を聞いたところ、「感じると思う」(47.7%)が約5割となっている。

一方、「感じると思わない」(21.1%)が2割を超えている。

また、「どちらともいえない」(29.1%)は約3割となっている。

(n=1,504)

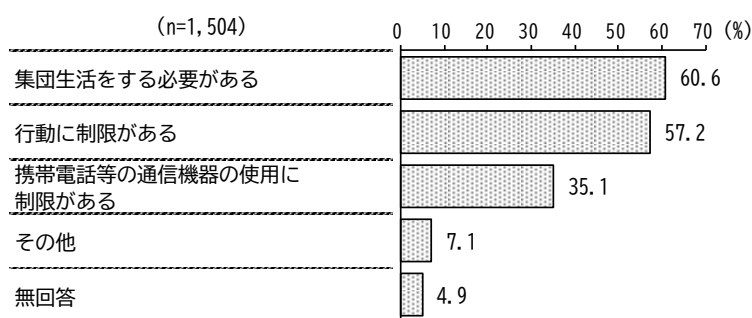


(4)シェルターに入所することをためらう理由

(複数回答:いくつでも)

シェルターに入所することをためらう理由を聞いたところ、「集団生活をする必要がある」(60.6%)が6割で最も高く、以下、「行動に制限がある」(57.2%)、「携帯電話等の通信機器の使用に制限がある」(35.1%)が続く。

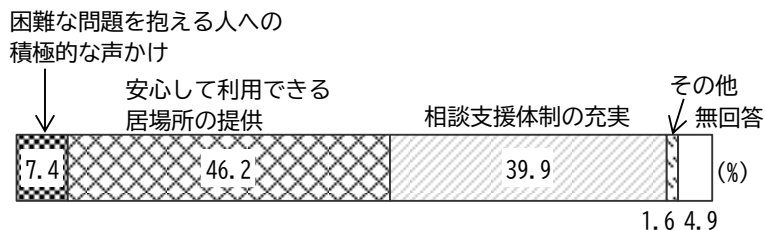
(n=1,504)



(5)困難な問題を抱える女性への行政の支援で必要なこと

困難な問題を抱える女性への行政の支援で必要なことを聞いたところ、「安心して利用できる居場所の提供」(46.2%)が4割台半ばで最も高く、以下、「相談支援体制の充実」(39.9%)、「困難な問題を抱える人への積極的な声かけ」(7.4%)が続く。

(n=1,504)



「困難な問題を抱える女性への支援について」の自由回答(抜粋)

ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、106人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載するものとする。

■「困難な問題を抱える女性への支援について」の自由回答(抜粋)

○行動制限があると、ためらう理由になり得る場合、病院に通わざるをえないこと等がある方もいると思います。行政、警察、病院との連携をとりながら個人が安心して居られる体制を取ることが望ましい。
(男性、60～64歳、印旛地域)

○相談して納得できる体制が必要。人に話すことによって安心できると思います。一人暮らしの方はいろいろと相談できるところがなく困っている方が多いです。
(女性、65～69歳、葛南地域)

○被害を受けた人は一生の傷を背負います。今も不安で苦しんでいる人に少しでも不安を柔らげ寄り添うことができる心を救う拠り所を増やして欲しいです。
(女性、20代、君津地域)

○まずは今置かれている状況から逃げられること、安全な場所にたどりつけることが大切だと思うので、相談支援体制とそのことを広める啓蒙活動が必要。
(女性、50代、東葛飾地域)

○支援を知らないで辛い思いをしている人がいると思うので、もっと広めてほしい。小学校高学年くらいから、男女共に支援があることを学べる環境があればいいと思います。
(女性、40代、葛南地域)

○自分が過去家庭問題で悩んだ時は、親族には心配かけたくないし、他人には相談するのが恥ずかしく、長期間引きずってしまいました。何かの折にボランティアで困っている女性を支援している人と知り合い、専門の弁護士に相談でき、解決へのきっかけとなりました。自ら公的な相談窓口に行くのはかなり勇気が要ると思うので、周りが様子の変化に気付いて声をかけるのが最も支援しやすいのではないかと思います。
(女性、40代、夷隅地域)

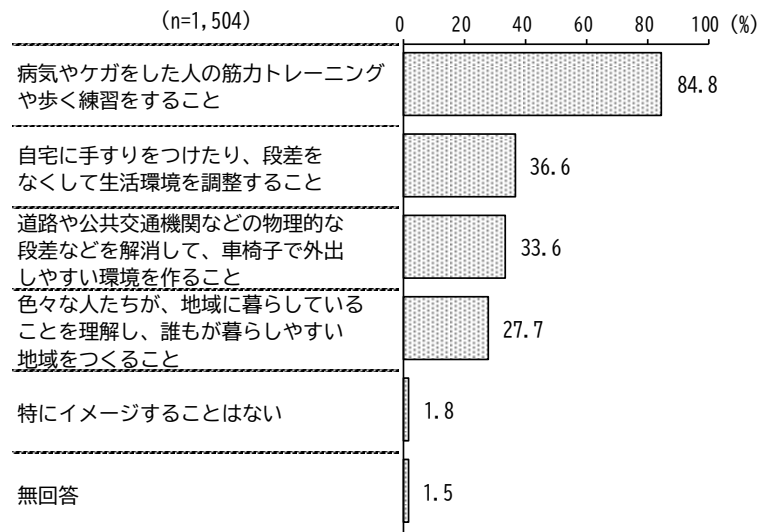
○DV被害者が制限され、加害者が自由(接近禁止命令があっても)なのは、なぜかと思う。加害者更生プログラムなどを義務づけたり、加害者が一方的な自分の言動を行使できないよう、社会的に毅然としたペナルティや制度が必要だと思います。
(女性、40代、千葉地域)

○時代的に女性だけでなく全体的に困難が多い印象。生活困窮は女性だけの問題ではない。DV、家族関係破綻等は見えづらい問題なので、広告等で関心をもってもらおう。
(男性、30代、東葛飾地域)

(1)「リハビリテーション」の言葉のイメージ

(複数回答:いくつでも)

「リハビリテーション」の言葉のイメージを聞いたところ、「病気やケガをした人の筋力トレーニングや歩く練習をすること」(84.8%)が8割台半ばで最も高く、以下、「自宅に手すりをつけたり、段差をなくして生活環境を調整すること」(36.6%)、「道路や公共交通機関などの物理的な段差などを解消して、車椅子で外出しやすい環境を作ること」(33.6%)、「道路や公共交通機関などの物理的な段差などを解消して、車椅子で外出しやすい環境を作ること」(33.6%)、「色々な人たちが、地域に暮らしていることを理解し、誰もが暮らしやすい地域をつくること」(27.7%)が続く。

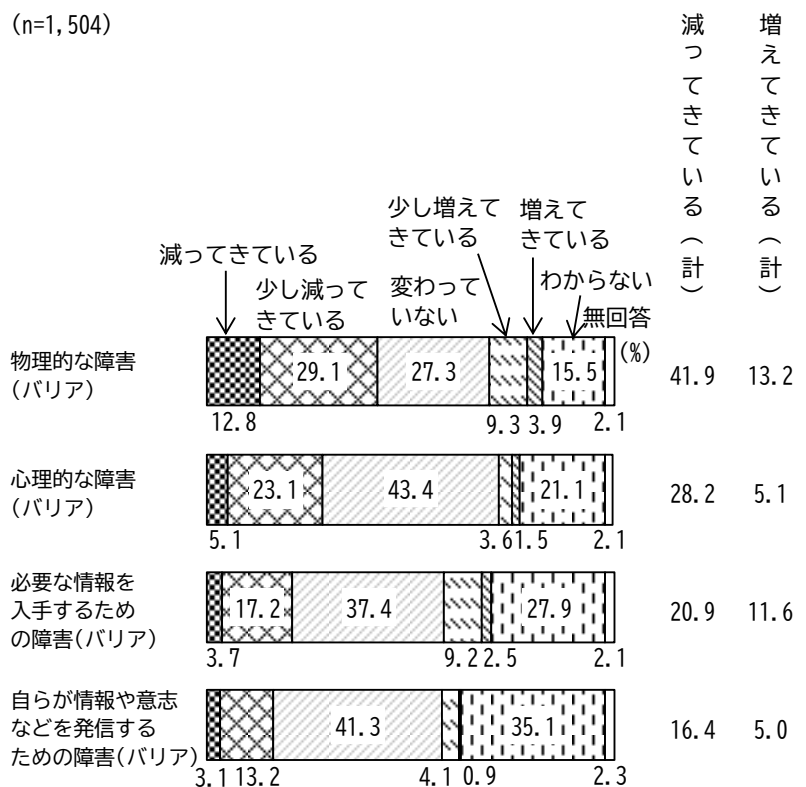


(2)「社会的な障害(バリア)」の増減

「社会的な障害(バリア)」の4項目について、それぞれの増減を聞いたところ、「減ってきている」と「少し減ってきている」を合わせた『減ってきている(計)』が最も高いのは、「物理的な障害(バリア)」(41.9%)が4割を超え、以下、「心理的な障害(バリア)」(28.2%)、「必要な情報を入手するための障害(バリア)」(20.9%)が続く。

一方、「少し増えてきている」と「増えてきている」を合わせた『増えてきている(計)』が最も高いのは、「物理的な障害(バリア)」(13.2%)が1割を超え、以下、「必要な情報を入手するための障害(バリア)」(11.6%)、「心理的な障害(バリア)」(5.1%)が続く。

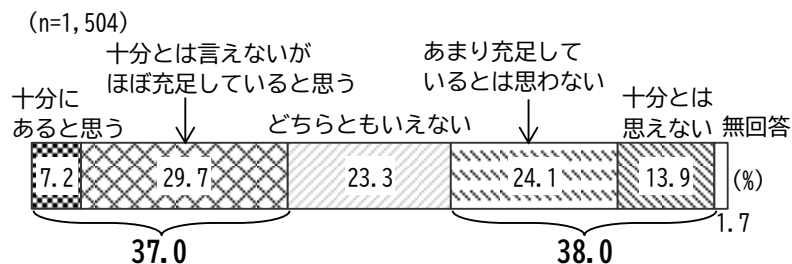
(n=1,504)



(3)ケガや病気の際にリハビリを受けられる医療機関の充足度

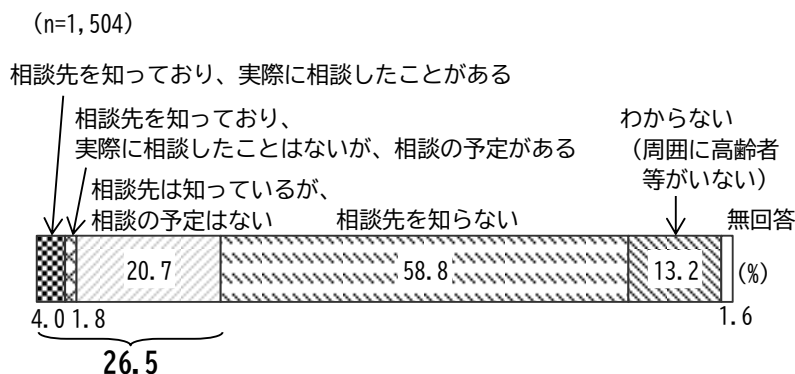
ケガや病気の際にリハビリを受けられる医療機関の充足度を聞いたところ、「十分に思う」と「十分とは言えないがほぼ充足していると思う」(29.7%)を合わせた『充足している(計)』(37.0%)が約4割となっている。

一方、「あまり充足しているとは思わない」と「十分とは思えない」(13.9%)を合わせた『充足していない(計)』(38.0%)は約4割となっている。



(4)障害のある人や高齢者の相談場所、相談の有無

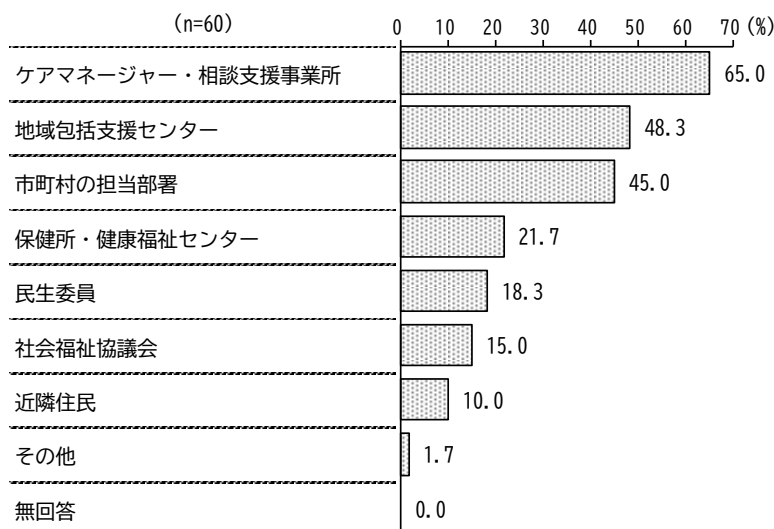
障害のある人や高齢者の相談場所、相談の有無を聞いたところ、「相談先を知っており、実際に相談したことがある」(4.0%)、「相談先を知っており、実際に相談したことはないが、相談の予定がある」(1.8%)、「相談先は知っているが、相談の予定はない」(20.7%)の3つを合わせた『相談先を知っている(計)』(26.5%)が2割台半ばとなっている。



(4-1)災害時の不安や困りごとの相談先

(複数回答:いくつでも)

災害時の不安や困りごとの相談先を聞いたところ、「ケアマネジャー・相談支援事業所」(65.0%)が6割台半ばで最も高く、以下、「地域包括支援センター」(48.3%)、「市町村の担当部署」(45.0%)、「保健所・健康福祉センター」(21.7%)が続く。



「地域リハビリテーションについて」の自由回答(抜粋)

ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、87人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載するものとする。

■「地域リハビリテーションについて」の自由回答(抜粋)

- 必要な情報にたどり着くことが健常者にとっても困難になっていると感じるくらい制度が複雑で、凄い数の申請作業をしなくてはならない。家族のことでやっているが、自分の時は誰がやってくれるのか。無理だなあと思う。
(男性、60～64歳、東葛飾地域)
- 地域リハビリテーションという言葉は初めて知った。高齢者なら尚更知らない人が多いと思う。まずは全世代向けの情報発信の仕方を見直してほしい。
(女性、40代、山武地域)
- 相談するには信頼が必要です。各相談場所／窓口がどのような人員が配置され、どのような相談／改善実績があるかを発信していただければありがたいと思います。
(男性、65～69歳、葛南地域)
- 情報が少ないように感じるので、ポスターや情報紙など2次元コードで知れるようにして頂きたい。社会的な障害(バリア)のどこがどのように変わったなど、減っていく姿を目で確認できると、意識が変わっていくと思う。
(女性、40代、千葉地域)
- 高齢化が進んでいるので、お年寄りの方が気軽にできるリハビリ、相談場所を増やしてほしい。又、あるのであれば広報等に掲載して頂ければ、高齢者の方々に伝わると思います。
(女性、50代、印旛地域)
- 近年都市部では都市開発によりバリアフリーは増えて行く一方、過疎化した地域で暮らす方々の環境整備の落差が激しいと思う。
(女性、20代、君津地域)
- リハビリが必要だと考えた時に、とりあえずの相談窓口を1本にして周知させ、その窓口からケース毎に振り分けるという仕組のほうが、利用者には分かりやすいのではないのでしょうか？
(男性、60～64歳、印旛地域)
- よくわかりませんが、今の世の中は健康な人の立場で生活するようになってきていると思うので、障害をもっている人と共に行動して、改善を要する所など障害者の目線で関係者が理解してほしい。
(女性、70～74歳、葛南地域)
- バリアフリー化などの設備改善はどうしても時間や予算がかかること、利用者が極めて少ない等で改善が難しく対応する側(事業者)が困難な場合があることを広く周知してほしい。
(男性、40代、葛南地域)
- 『地域リハビリテーション』という言葉は内容が伝わりにくいと思う。
(男性、65～69歳、東葛飾地域)

自由回答(抜粋)

県への意見を自由に記述していただいたところ、県への意見については209人から延べ248件の回答が寄せられた。

記述いただいた内容は多岐に渡り、県政の各施策におおむね沿った形で整理した。意見の多い項目に関して、一部抜粋してご意見を記載した。

◆県政全般に関する要望

○県民の声を大切にすると幸いです。(男性、30代、安房地域)

◆公共交通網（バス・鉄道）を整備する

○これから高齢になり車が使えなくなると買い物難民になります。何か交通手段を考えて頂きたいと思います。移動スーパー等でもいいと思います。(女性、70～74歳、山武地域)

◆道路を整備する

○自転車通勤をしておりますが、路側帯を通行するのがルールなので走っていると国道、県道、市道問わず、草が生えすぎていたり、段差スロープがあつてふさがれていたり、幅がせまかったりで、意外とともに自転車が走行できない所が多いです。(男性、50代、千葉地域)

◆次世代を担う子どもの育成支援を充実する

○収入は増えないのに物価が高く生活が大変。子どもにもお金がかかる。子育て支援を充実してほしい。(女性、30代、葛南地域)

◆県政の情報発信について

○子どもや高齢者に優しい千葉県であってほしいです。良いところがたくさんあるのでもっとアピールしてください。(女性、40代、葛南地域)

◆障害のある人の福祉や社会参加の支援を充実する

○どんな障害者でも安心して暮らせる街になればと願っています。(女性、60～64歳、東葛飾地域)

◆高齢者の福祉を充実する

○高齢者が多くなっているのです、そのような（徒歩、バスなどで行けるような）憩いの場的なところができればいいと思います。(女性、40代、印旛地域)

◆観光を振興する

○県外の人遊びに来たくなるような施設を増やして欲しいです。また、それに伴い交通網も整備して欲しいです。(女性、30代、東葛飾地域)

「世論調査」に関する意見や提案を自由に記述していただいたところ、79人から79件の回答が寄せられた。これらのご意見から、一部抜粋してご意見を記載するものとする。

◆世論調査について

―《世論調査自体への意見》

- この世論調査を毎年行っており、この調査結果は公表されていますが、県政にどのように反映されているか周知されることを希望します。
(男性、75歳以上、東葛飾地域)
- SNSでの流動的な世論より、1人1人がどう思っているか、しっかり答える世論調査は今の時代にこそ必要だと思う。県政にしっかり生かして下さい。
(女性、40代、千葉地域)
- アンケートに回答して、社会が見えていない自分に少し気づきました。そういう意義が私にとってはありました。
(女性、40代、印旛地域)

―《調査手法や謝礼への意見》

- ネット回答のログイン方法が一目でわからず、戸惑った。説明をもう少しわかりやすくしてほしい。
(女性、50代、東葛飾地域)
- チーバくんのボールペンありがとうございました。この世論調査、記入するのにけっこう時間がかかったのもっと手軽に短い時間でできる物だと良いと思います。
(女性、40代、香取地域)
- 回答した人にクオカード(500円)を渡すとかインセンティブを与えても良いのではないかな。
(男性、40代、東葛飾地域)

―《設問への意見》

- 質問項目が多すぎる。回答に1時間半かった。
(男性、75歳以上、千葉地域)
- 地域経済に活気があるか(衰退を感じないか)や予想される天災についてどのように考え行動しているかといったような設問があってもよかったのではないのでしょうか。
(男性、50代、長生地域)
- 県政に関する質問の中に、子育てに関する質問がなかったのが非常に残念です。
(女性、20代、東葛飾地域)